

令和4年第4回
総務文教常任委員会

所管事務調査報告

期 日：令和4年7月21日(木)
15:00~16:00

調査内容：令和4年度所管事務調査

(1)国見町公営塾「放課後塾ハル」について

- ①具体的な取り組みについて
- ②塾と地域おこし協力隊の関わりについて

出席者：総務文教常任委員6名、傍聴議員3名
説明者：生涯学習係長、放課後塾ハル塾長

国見町議会

ページ

| | |
|--------------|----|
| 八島博正委員長…………… | 3 |
| 浅野富男委員…………… | 4 |
| 松浦常雄委員…………… | 6 |
| 山崎健吉委員…………… | 8 |
| 穴戸武志委員…………… | 10 |
| 蒲倉孝委員…………… | 12 |

令和4年第4回総務文教常任委員会 所管事務調査報告書

令和4年7月27日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

【内容】放課後塾ハルの状況について 放課後塾ハル 塾長 三好菜月氏

①放課後塾の内容について

◎中学生は、1～2年と3年の2組がある

- 〔1年生は7月5日より始まり、生徒63名中28名が参加
- 〔2年生は4月19日より開始、生徒64名中17名が参加
- 〔3年生は4月18日より開始し、夏期講習中は週2回とする

- ・週1回開講で、数学・英語を中心に放課後に実施
- ・経費は1カ月につき、1・2年生は1,500円、3年生は3,000円
- ・スタッフは5人で行っている

◎小学生は5・6年を対象に、国見小体育館ミーティングルームで実施

- ・宿題の支援と、算数を中心に週1回受講している。
- ・5月23日から始め、5年生36名中14名、6年生50名中24名が参加している。

【感想】

- ・小学校、中学校とも保護者説明会を開催し、また体験入塾会を実施しているが、参加者と不参加者の中で問題が起きないか心配である。
- ・スタッフ5名及び地域おこし協力隊2名で実施しているが、その効果に対する評価は、今後時間が必要と思う。
- ・7名全員とはいかないまでも、1人でも多く国見町に定住者が出てほしい。

以上

令和4年第4回総務文教常任委員会 所管事務調査報告書

令和4年7月28日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 浅野 富男

【調査内容】国見町公営塾「放課後塾ハル」の現地視察

日 時 令和4年 7月21日(木) 15:00～

場 所 国見町公営塾「放課後ハル」(アカリ2F)

国見町公営の塾「ハル」が今回の視察研修である。塾を開くのは当然放課後となるが、正式名称は「放課後塾ハル」であり視察の時間は午後3時からとなった。「ハル」とは本町の名称である国見から「国を見渡す」すなわち「未来を見響かす(見晴るかす)」とも言えることから「ハル」としたとの事である。

内容について中学生の1・2年生は、数学、英語を中心とした教科で、火、水、金曜日のいずれかを選択、週1回の受講日となっている。3年生も教科は同じで、月、水曜日が受講日となっている。但し夏期講習といった日程も組まれており、週2回の受講日となる時期もある。

小学生については5・6年生が対象であり、月、火、木、金曜日から週1回、宿題への支援、算数を中心とした学習のサポートを行っている。この他にも、テーマ授業という時間枠もあり、子供たちが関心を持っている事にテーマを絞り、その解明に向けて探求していく内容となっている。

学校での授業は各教科について学問として学ぶことが主であるが、「放課後塾ハル」は学校での授業とは異なり、各教科を横断的に学べるように配慮した内容にしているとのことである。その例として、「アートとは？」と言う題材での講義を模擬的に行ってもらった。有名な画家が描いた数点の絵を見せられたので、作者の名前を当てることかなと思っていたら、値段の高低順に並べてみよとの事である。横断的との内容は、各教科の集成として物事の質量を見ることに気付かせることが主眼であるという意味に捉えた。

地域との関わりを持ちながら、さまざまな経験を実践的に学び、継続的に社会に関わること、これが「放課後塾ハル」で受講生が学び取ることの重要な意味かも知れない。

【感想】

「塾」というからには進学を目標に講義をする必要がある。希望する学校に入学するためには、入学試験と言う関門を通らなければならない。この関門を通過することのために、一般的には日々勉強に励むのが「塾」と捉えていた。

しかし「放課後塾ハル」は違っていた。学校での授業を終えてから塾に来て、また同じスタイルでの受講では飽きてしまう。このことを十分に踏まえて受講スタイルを変えているものと思う。

学びには社会的な要素がふんだんにあること、何をどのように覚え知識として蓄積すべきなのか、そんな観点到気付かせる、あるいは気づいてもらう事が、塾としての講義の基本に据えているように感じられる。

以 上

令和4年第4回総務文教常任委員会 所管事務調査報告書

令和4年7月28日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦常雄

1 視察の目的、日時、出席者

- (1) 目的：国見町公営塾「放課後塾ハル」の事業内容の視察
- (2) 日時：令和4年7月21日 午後3時～
- (3) 出席者：議会 総務文教常任委員6名、傍聴議員3名（東海林、渡辺、小林）、渋谷議会事務局長
説明者：塾長 三好菜月

2 「放課後塾ハル」の事業内容

- (1) 放課後塾ハル中学部（会場：アカリ）
 - 内容 数学、英語を中心とした教科学習
 - 実施日 火、木、金（曜日を選択し週1回受講）
 - 開塾 2年：4月19日から開始
1年：7月5日 開塾
 - 受講者 2年：17名（64名中）
1年：28名（63名中）

3年生

- 内容 数学、英語を中心とした教科学習
- 実施日 月、木（曜日を選択し週1回受講）
※夏期講習から2回実施となる。 ※7月21日～
- 開塾 4月18日から開始
- 受講者 21名（60名中）

※中学部の保護者説明会を6月18日、体験入塾会を6月21日に実施。

※中学部のテーマ授業は、2学期以降に実施の予定。

(2) 放課後塾ハル小学部（会場：国見小学校体育館ミーティングルーム）

- 対象 5、6年生
- 内容 宿題への支援、算数を中心とした学習サポート
テーマ授業（「地球編」を実施）
- 実施日 月、火、木、金（曜日を選択し、週1回受講）
- 開塾 5月23日から開始
- 受講者 5年生14名（36名中）、6年生24名（50名中）

※小学校の保護者説明会を5月7日、体験入塾会を5月10日に実施。

3 調査の結果

- ① 経費：小学生は、0。 中学生1、2年生は1,500円。（印刷代、保険料）
3年生は、週2回で3,000円
- ② 教材については、学校で使用している教材の他、ハルに備えの教材を印刷して使用している。
- ③ 昨年度の進路について
18名は、希望の公立高校へ。2名は、私立校へ。

4 「放課後塾ハル」について感じたこと

- ① 過去に学習塾で教師をした経験者の塾長を中心にして、少ない人数で充実した授業が行われていることが伺われる。
- ② 小中学生の学習サポートに効果を上げていると思う。民間の学習塾へ通えない生徒に取っては大変良い学びの場になっていると思う。
- ③ テーマ授業は、学校では学べない多様な学びが体験できる良い機会であると思う。
- ④ 若い年代の力を活用した地域おこし協力隊による塾の運営は、活力があり、成果を上げていると思う。

以上

令和4年第4回総務文教常任委員会 所管事務調査報告書

令和4年7月24日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 山崎健吉

【内容】

塾長から「放課後塾ハル」の説明がありました。

令和3年6月、国見町に県内初となった公営塾が開塾しました。

「放課後塾ハル」の由来は国見町の名前の由来である「国を見晴るかす」という言葉からの発想を得て「地域と子どもの未来を見晴るかす」というコンセプトのもと、塾の運営をしている。子どもたちが自分の将来や未来の地域を遠くまで見晴らし、自分の人生をワクワクしながら歩んでほしいとの願いを込めて命名されたとの事です。

放課後塾ハルでは3つのトビラを拓くサポートを実施している。

(1) 知のトビラ

- ・ICTを活用した個別最適化学習の実施。
- ・科目指導(受験指導)を中心とした学習サポート。

(2) 好奇心のトビラ

- ・様々なテーマを扱って興味関心を引き出す。
- ・新たな社会を知ることでキャリアのきっかけを生み出す。

(3) 挑戦のトビラ

- ・地域をフィールドに地域課題解決に挑戦する。
- ・人と協働して何かを生み出す楽しさを体感する。

以上の3つの「トビラ」を通じて、子どもたちの個性と自立を育み、様々なアプローチで地域や社会に貢献していく人材を育てたい。

放課後塾ハルには、小学部と中学部があり中学部の1、2、3年生の授業内容は数学・英語を中心として内容で週に1回が基本で夏休みは2回の受講を実施している。

小学部は5、6年生を対象に主に宿題への支援、算数を中心とした学習サ

ポートを行っている。

【感想】

昨年の開塾であったが、実績は109名の生徒が活用しているとのことであり、学校との連携もあり、有意義な塾であると感じた。塾長から授業の一部を実践して頂き、大変ユニークな指導方法であり、生徒も興味を覚えるのではないかと感じました。

都市部においては、塾通いの生徒が多いが、当町には、塾が少なく生徒や親御さんにとっては大変いい場所ではと感じている。今後も地域に貢献できる人材を指導してほしい。

以上

令和4年第4回総務文教常任委員会 所管事務調査報告書

令和4年7月26日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 穴戸武志

私は、町会議員選挙に「教育こそ町発展の原点」を掲げ立候補、当選致しました。そのような関係もあり、今回、事務調査「放課後塾ハル」には大変興味を持っていました。信念として「教育は人を育てる」を肝に銘じています。

【内容】

〔塾の目的〕 「新しい学びのカタチ」をコンセプトに学ぶ楽しさを実感すること。

〔概要〕 当町の小学5年生から中学3年生を対象に、「学習サポート」「テーマ授業」「ハルプロジェクト」の3つを軸に、子どもたちが意欲的に学習できる環境づくりを行う。

私は、この塾の内容をこのように解釈致しました。

【感想】

1. 当町には、民間の塾がないに等しい。今や、教育に塾は良いか悪いかは別として、不可欠な時代となっている。又、教育環境の物差しにもなっている。当町にとってこの塾の誕生は大変意義がある。父兄も安心している方も多いと思われる。他との競争条件にスタートラインが一緒になったと言える。
2. 塾の先生方は全国から集まった優秀な地域おこし協力隊のメンバーが中心である。又、様々な職業体験もしている。井の中の蛙的発想はない。その体験を通じた授業は貴重である。子供たちは大いに刺激を享受すること請け合いである。民間の塾と違う側面もある。
3. 塾の内容を見ていくと、「学ぶ楽しさを実践する」授業から「高校受験対策」授業まで幅が広い。又、自ら考えて答えを導き出す授業になっている。「学ぶとは何か」が自然と身につくのではないか。このことを理解した子供

たちは、将来の伸びしろが大きくなると確信している。

4. 限られた授業の中で、一人でも多く「学ぶ楽しさ」「なぜ学ぶか」を体得して頂く。ややもすると「勉強は苦痛」と考える子どもが多い。この機会に、払拭して頂きたい。

【この塾に対する期待】

1. この塾は、昨年度からの取り組みである。試行錯誤の連続だと思う。柔軟に対応し果敢にチャレンジする塾であることを願う。学校と違う、新しい発想で授業・運営をお願いする。
2. 「継続は力なり」行政には、くれぐれも途中で打ち切らないようお願いする。教育は長期にわたって見てゆくことが肝心。すぐに結果を求めない姿勢が大事である。自ずと人は育ってゆく。

【まとめ】

塾長より「勉強は手段で目的ではない」 いい言葉を頂いた。私も、勉強は永遠に続くものと考え。肝に銘じたい。

以 上

令和4年第4回総務文教常任委員会 所管事務調査報告書

令和4年7月31日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 蒲倉 孝

【調査場所】 Co-Leaning Space (コワーキングスペース) 「アカリ」2階

【説明】 塾長 三好 菜月 様 (出身;大阪府/特技;なぎなた)

1: 放課後公営塾ハルについて

- ・名前「ハル」は、国見町の名前の由来「国を見晴るかす」という言葉から着想を得て、「地域と子どもの未来を見晴るかす」というコンセプトのもと、子どもたちが自分の将来や地域の未来を遠くまで見晴らし、自分の人生をワクワクしながら歩いてほしいという願いが込められている。
- ・スタッフ … 5名
- ・小学部(5～6年生)…国見小体育館ミーティングルーム(38名)
⇒ 宿題支援。算数を中心とした教科指導。テーマ学習
- ・中学部(1～3年生)…アカリ2F (66名)
⇒ 英語・数学を指導。中3は受験対策。テーマ学習
- ・小中学生の段階から地域との関わりを持ちながらさまざまな経験や学びをつくりだすことで、継続的に地域と関わる人材を育成する。

2: 4つの軸

- ①教科学習のサポート
- ②面談
- ③学校連携
- ④「フミダス」プロジェクト ⇒ 好奇心のトビラを拓くテーマ授業

【所感】

- ・放課後公営塾ハルは、「国見町地域学校協働本部の取り組みについて」にも掲載されている「国見未来塾」の一部と伺い、今後整備が進められる「国見学園」との連携も期待できると感じた。
- ・必ずしも、同一施設および同一敷地内に拘らず、保幼小中一貫教育の検討をお願いします。

以上